平成１３年度当初予算　基本事務事業目的評価表

［基本事務事業名］　三重県病院事業
［評価年月日］　平成 12 年 10 月 31 日
［主担当部課名］　病院事業庁県立病院課
［記入課名・課長名］　県立病院課長　山舗　哲

1　総合計画の政策体系上の位置づけ

政策： 安心できる生活の確保（Ⅱ－３）
施策： 医療供給体制の整備　（1 ― 301）
総合計画の目標項目：多様化する医療需要に対し的確に県民の健康増進に貢献する
波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策：「保健・福祉サービスの充実」、「ささえあい社会の基盤づくり」

2　基本事務事業を巡る環境変化（過去、現状、将来）

（1）　疾病構造の変化、少子高齢社会の進展等により、医療に対するニーズが多様化し、県民は地域間格差のない良質な医療を安心して受けることを志向している。
（2）　様々な設立主体による医療サービス提供機関が、質的にも量的にも充実してきている。
（3）　病院の役割機能の分化、医療費の抑制等を中心とした厳しい医療制度改正が今後も進められる。
（4）　国や地方公共団体の財政が硬直化し、県立病院に対する従来水準の財政支援が不透明となっている。
（5）　県立病院は、赤字経営が経常化し、平成 11 年度末の累積欠損金が 154 億円余となるなど憂慮すべき経営状態に陥っている。

3　基本事務事業の目的と成果

3－(1)　対象と意図（何をどういう状態にしたいのか）

対象：医療サービスを必要とする県民
意図：　ア　県民の医療サービスに関するニーズ、要望に応える。
　　イ　患者の皆様に、良質で満足度の高い医療を、快適な環境のもとで安心して受けていただくとともに、早期に家庭や社会へ復帰していただく。

3－(2)　成果指標名・成果指標式（総合計画の目標項目には＊を付す）

ア　病院機能の健全度＝診療機能充足度×医療ｻｰﾋﾞｽ満足度×医療行政施策推進貢献度

診療機能充足度＝診療機能整備率×平均在院日数改善率×平均通院日数改善率×患者紹介改善率

医療ｻｰﾋﾞｽ満足度＝県立病院利用率×事故・ﾄﾗﾌﾞﾙ改善率×患者苦情改善率

医療行政施策推進貢献度＝ｼﾋﾞﾙﾐﾆﾏﾑ確保貢献率×救急医療貢献率×その他の医療行政施策推進貢献率

イ　収支の健全度＝当該年度目標経常収支額÷当該年度経常収支額

3－(3)　設定した成果指標に関する説明（指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など）

良質で満足度の高い医療を継続的に提供するには、『機能の健全』と『収支の健全』が必要不可欠である。

ア　病院機能の健全度は、対象者の本来ニーズが、「病気が快適な環境のもとで安心して治癒・軽快し、早期に家庭や社会へ復帰・参加すること」にあることから、診療機能の充足状況、治療・治癒期間、サービスに対する評価等に関する指標が客観的、実用的と判断した。

また、医療行政施策推進貢献度は、県立病院の使命・役割を反映する指標を選定した。

イ　収支の健全度は、決算ベースの経常収支額（＝経常収益額－経常費用額）と計画目標の経常収支額との対比で明らかになると判断した。

3－(4)　結果（施策における 2010 年度の目標）

①　県民（患者）の皆様の生活や医療面での不安を軽減する。

②　県民（患者）の皆様の家庭や社会への復帰・参加を促進する。

③　県立病院の機能と収支の健全性を発揮し、県内の医療機関のモデルとなる医療サービスを継続的に提供する体制を整える。

4　基本事務事業の評価

4－(1)　前年度（H11 年度）における基本事務事業の結果評価

①　前年度に行った内容と成果

・　『三重県病院事業経営健全化計画（H10 年 3 月策定)』とこれを実現化する「三重県病院事業経営健全化推進プラン（H10 年 12 月策定)」に基づき、H11 年度の「率先実行・取組（H11 年度から策定)」と「経営健全化プラン実施管理表（毎年度策定)」に示された H11 年度の目標数値の達成と改善方策の実行、実践に努めた。

・　その結果、病院機能と経営収支の両面から健全化が進展し、とりわけ収支は、経営健全化推進プランの 11 年度目標経常収支額（▲ 13 億 4,900 万円余）を実質（中途退職者増による退職給与金の増額約 5 億 4,400 万円を除く）約 2 億 7,400 万円ほど上回り、前年度に引き続き目標をクリアーした。

②　前年度に残った課題

・ 機能の健全化に関する課題

有能な医療従事者の確保・育成・活用（特に医師の確保）、部門別損益計算評価システムの構築、総合医療センターの病棟再編、総合医療センター及び志摩病院の病床一元管理

・ 収支の健全化に関する課題

繰り入れルールの見直し

４－（２） 本年度（H12 年度）における基本事務事業の見込み評価

① 本年度に行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

「率先実行・取組」と「経営健全化プラン実施管理表」を策定し、これらに示された H12 年度の目標数値の達成と改善方策の実行、実践に努めている。

・ 機能の健全化に関する成果

事業全体

⇒ 「計画・実行・評価」のサイクルの定着化、部門別目標の設定、「患者の権利と責任」の策定・公表、危機管理マニュアルの策定、広聴広報機能の充実、職員と患者様アンケートの実施、医師確保対策、研修医システムの見直し、電子病院化の推進、病棟服薬指導の実施、管理者等研修の充実、接遇サービスの充実

総合医療センター

⇒ 病病・病診連携の強化、病棟機能の強化、クリティカルパスの定着化、看護基準の見直し、院内ボランティアの推進

こころの医療センター

⇒ 医師確保、環境改善と美化運動、医療従事者の養成、研修会・研究会の充実、院内感染対策の充実

一志病院

⇒ 医師確保、リハビリテーションの充実、病病・病診連携の強化、在宅支援システムの促進、健康のつどいの開催、病院広報誌の発行

志摩病院

⇒ 脳神経外科専門外来の開始、人工透析機能の充実、病院祭りの開催

・ 収支の健全化に関する成果

事業全体

⇒ 12 月補正予算（案）における経常収支額は約▲ 12 億 2,600 万円で、本年度の上半期経営実績を勘案すると、推進プランの 12 年度目標経常収支額（約▲ 14 億 1,200 万円）の達成は射程圏内にある。

また、新規に財務会計システムを導入する。

② 本年度残ると思われる課題

・ 変化に耐え得る組織の形成

・ 組織風土の活性化

・ 優秀な医師の確保

・　４病院を一体とした医師人事異動システムの構築
・　部門別損益計算システムの導入

5　基本事務事業の改革方向

（1）　廃止、統廃合を行う事務事業

①　健全化計画においては、４事業（総合医療センター事業、こころの医療センター事業、一志病院事業、志摩病院事業）の健全化期間中（H9 年度～ 13 年度）の統廃合は視野に入っていない。

②　４事業（４病院）を一体とした取組は推進する。

（2）　成果を向上させる事務事業とその方向

①　総合医療センター事業における増床病棟の本格稼働

②　４事業（４病院）の診療機能（総合医療センター及び志摩病院：救急部門の強化、高度医療機器の配備）及び病棟機能（総合医療センター及び志摩病院：病床一元管理、こころの医療センター：精神療養病床の拡充）の充実

③　４事業（４病院）に適した内部・外部評価システム（部門別損益計算システム、病院機能評価）の導入と円滑な運用

④　病病・病診連携による紹介・逆紹介の推進

⑤　診療報酬漏れ防止対策（専門職員の配置増による巡回指導等）の充実

⑥　事業職員（特に医師と看護職員）の確保、育成、活用、評価、処遇システムの確立と円滑な運用

⑦　電子病院化

（3）　コストを削減する事務事業とその方策

①　４県知事懇談会における共同取組（例：医薬診療材料等の共同購入）

②　委託契約等における複数年契約の推進

③　４事業（４病院）における業務の外部委託の推進と関係職員の適切な処遇

6　成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値〔経常収支額〕		総合計画	予算額等(千円)	必要概算
	目標（千円）	実績（千円）	目標数値	所用時間(時間)	コスト(千円)
前々年度				19,505,120	19,505,120
(H10 年度)	－ 1,112,574	－ 1,034,871		2,248,315	
前年度				19,895,694	19,854,694
(H11 年度)	－ 1,349,926	－ 1,623,490		2,287,835	
本年度				19,786,705	19,786,705
(H12 年度)	－ 1,412,661			2,254,965	
本年度補正後				19,806,705	19,806,705
(H12 年度)	－ 1,412,661			2,254,965	
翌年度				19,381,517	19,381,517
(H13 年度)	45,853			2,271,764	
計画目標年次					
(H13 年度)	45,853				

基本事務事業名：三重県病院事業

7　翌年度（H13 年度）の基本事務事業における事務事業戦略プランシート

＜必要概算コスト：☆５億円以上、◎～１億円、◇～５千万、＊休止・廃止＞

基本事務事業の成果向上への貢献度合

基本事務事業名：三重県病院事業

8　基本事務事業を構成する事務事業の詳細

※　新規事務事業には、事務事業名に（新）を付す

事務事業名 （担当課:県立病院課）	成果指標名	事務事業の概要
総合医療ｾﾝﾀｰ	・病院機能の健全度 ・収支の健全度	・　北勢地域の急性期医療を担うため、救命救急センターを中心とする救急医療分野を充実させながら､他の病院・診療所等と連携を図りつつ、高度特殊医療を提供する ・　県の医療水準と医療サービス向上に貢献するとともに、県の医療行政施策の支援基地としての機能を果たす
こころの医療ｾﾝﾀｰ	・病院機能の健全度 ・収支の健全度	・　県の精神医療の基幹病院として、それぞれの患者様の求めに合った総合的・専門的な医療とリハビリテーションを提供する ・　精神医療のモデルとなる役割を果たし、誰もが安心して、利用できる精神科医療を行うとともに、社会復帰､・社会参加をさらに推進させるため、地域の諸機関・施設と協力して、連続した地域支援システムをつくり、ノーマライゼーションの推進拠点としての機能を果たす
一志病院	・病院機能の健全度 ・収支の健全度	・　保健医療の一体的取組等地域と密着した医療をモデルとして提供する ・　奥一志地域のシビルニミマムを確保するため、過疎化、高齢化に対応し、地域に不可欠な救急及び老人医療を中心とする機能を果たす
志摩病院	・病院機能の健全度 ・収支の健全度	・　伊勢志摩サブ医療圏の中核的病院として、２次救急、リゾートに対応できる医療を提供する ・　病病連携、病診連携により、診療圏内の病院や診療所のリーダー的役割を果たす

事務事業名 （担当課）	13 年度 予算額 （千円）	予算額 前年度対比 （±千円）	13 年度 所用時間 （時間）	所要時間 前年度対比 （±時間）
総合医療ｾﾝﾀｰ	9,127,239	97,021	948,619	19,526
こころの医療ｾﾝﾀｰ	3,702,023	▲ 171,949	513,305	2,781
一志病院	1,227,260	▲ 36,414	135,005	▲ 6,008
志摩病院	5,010,422	▲ 121,651	627,373	2,504
（県立病院課）	314,573	▲ 172,195	47,462	▲ 2,004